

乙訓平和委員会ニュース

発行年月日 2023年11月15日 No.464 発行・乙訓平和委員会 編集責任者・米重節男
電話・FAX 075-932-3546 MAIL heiwaotokuni@gmail.com

こんな火薬製造所が故郷にあったとは全然知らなかった！

向日市 田中洋子

10月29日（日）、「戦争遺跡に平和を学ぶ京都の会」のフィールドワークに、参加させていただきました。戦争遺跡を訪ねることに加えて、私が生まれ育った所に帰るということもあり、当日を楽しみに待ちました。

海上自衛隊舞鶴基地…東舞鶴湾を遊覧船で巡り、たくさんの艦船や施設を見ました。遊覧船の案内の方の説明は明るく、私は聞くうちにまるでおもちゃの見本市の会場のように思えてきました。今まで艦船を1隻見るだけでも、その色、大きさ、形など、とても恐ろしく目をそむけたくなっていました。でも、この時は次々とたくさんの船を見て、その恐ろしさがどこかへ行ってしまいそうに感じました。観光で訪れた人はどう思われるのだろうと、とても恐ろしくなってきました。

日星高等学校…仲良しの従妹が通っていた学校



日星高校 正門は旧陸軍重砲連隊の門のまま

で、場所だけは知っていましたが、今回初めて中に入れてもらい、心がふるえました。戦争中の軍事施設を平和の施設にということで、戦後開かれた学校と聞き感動しました。校長先生が自ら案内、説明をして下さった事にも感動しました。貴重な体験をさせていただきました。

第三火薬廠跡…こんな所があった事は全然知りませんでした。住民を立ち退きさせて、広いひろい場所で火薬を作っていたこと。そこで働いていた工員、学徒の人たちの厳しい労働の説明を聞きました。近くを歩いておられた平和遺族会の中本さんの「戦争はアカン…」と言われたことばが耳に残りました。

舞鶴市は「平和港湾都市」と頑張っていた時期に、再びなつてほしいです。舞鶴での平和の行動は厳しいのではと思いました。参加させてもらってとても良かったです。

(写真：米重節男)

(2ページに別記事)



第3火薬廠跡内に残る砲弾製造工場の建屋

「音楽が生活に浸透している」

今日、木枯らし1号が吹きました。一気に寒い季節になってきました。読者の皆様は元気にされていますか。

先日古本屋で、『音楽記号辞典』(ヤマハミュージック、07.01.20 初版)を偶然に手に入れました。毎日1ページずつ読んでいます。全体で合計271個の音楽記号が丁寧に解説をされています。その音楽記号の中で、cantabile(カンタービレ:歌うように)と cantando(カンタン

ド:歌うように)の解説(P.109)が印象に残りました。cantabileは、canto(カント:歌)から派生した言葉、英語の song、仏語の chan(シャン)と同義語。cantando の解説は、cantare(カンターレ:歌う)の変化形、

「mangiare,cantare,amare」(マンジャーレ、カンターレ、アマーレ:食べて、歌って、恋して)はイタリア人が大好きな言葉として有名です。

読者の皆様は、計271個の音楽記号の中で、イタリア語はいくつあると思いますか？

実際に数えてみました。合計195個(約72%)ありました。中でも発想、強弱、速度を表す音楽記号は100%イタリア語でした。どうしてこんなに音楽記号にはイタリア語が多いのでしょうか。確かにイタリアと言えばオペラの国です。実際に私は映画の中でしかオペラを見たことはありませんが。

以前、知り合ったスペインの人が話していたことを思い出しました。スペインである若いイタリアの青年がその人の職場に来たそうです。彼が毎朝、来たらずることは、同じ部屋にいる同僚一人一人のところに行って言葉をかけるそうです。「今日はいい髪型ですね」「今日はおしゃれな服ですね」「今日笑顔は素敵ですね」。最初は戸惑ったそうですが、毎日なのでだんだん慣れてくるそうです。イタリアの方がみなそうではないとは思いますが、面白いエピソードです。

「情熱と哀愁の国」と言われるスペインの人がびつくりするイタリアの人には興味尽きないところです。ちなみに、スペインのマドリードのバスの横には、音楽の和音の記号 Em(下図)の音符が描かれていました。ミ、ソ、シです。まさに哀愁を奏でる和音です。

音楽が生活の中に浸透しているっていいですね。

(23.11.11)

